

研究課題名	当院で間欠的血液透析を施行した急性カフェイン中毒の透析回数の検討
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 臨床工学技術課 氏名 清水 勇人
研究期間	臨床研究倫理審査委員会承認後 ～ 2025年12月
研究の意義・目的	<p>急性カフェイン中毒とは中毒量1g、致死量5g以上相当のカフェインを大量摂取し発症した意識障害・嘔気や嘔吐の消化器症状、発汗などの交感神経刺激、洞性頻脈やQT延長、心室性不整脈の心電図変化、低K血症、高乳酸血症による代謝性アシドーシスなどの症状を引き起こす薬物中毒である。市販薬で容易にカフェインを入手できるため近年増加傾向であり日本中毒情報センターからの注意喚起もされている。</p> <p>日本中毒学会が2018年に発表した2011年から2016年の全国的調査では101人の急性カフェイン中毒において、全体の10.9%(11名)に血液透析を要したと報告している。</p> <p>当院は東京の住宅街に位置し、人口密度も高く急性カフェイン中毒への血液透析も1年間に数人と経験的に多い。この急性カフェイン中毒に対しては救命救急科の医師の診断で全国的にも積極的に当院は間欠的血液透析を施行している。重症者でも転帰や入院日数、致死性心室性不整脈の発症患者が0名と多くの症例報告に比較し良い傾向である。集中治療室では持続的血液浄化療法が好まれる中で、間欠的血液透析の症例数の多さから急性カフェイン中毒に対する間欠的血液透析の至適条件や施行回数、導入/介入/離脱の時期を検討し、腎臓内科医師、救命救急科医師、血液浄化担当臨床工学技士への治療戦略としての情報共有とすることを目的とする。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	2017年から2023年までの当院で間欠的血液透析を施行したカフェイン中毒患者の年齢、性別、体重、身長、推定内服量や時間、透析前後の検査所見、透析の治療内容および転帰を診療録・透析記録から後方視的に調査・検討する。間欠的血液透析を単回で離脱した群を単回施行群、2回施行した群を2回施行群として比較する。
①試料・情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む) ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	①研究対象者には研究用Noを割り振り、氏名と研究用Noの対応表を作成する。元データからは、氏名を削除し、研究に用いる。研究期間を通して対応表ファイルはパスワードをかけ、情報共有フォルダにあるパスワードロックのかかるスタンドアローンのパソコンで厳重に保管する。研究終了後は5年の保存期間を経過後速やかに廃棄する。 ②1) 患者基本情報：年齢、体重、身長、精神疾患の既往、内服薬の量・種類、内服目的 2) 血液検査：搬送時、透析前後のカリウム値、乳酸値、CK値 3) 臨床症状：消化器症状、心電図変化、交感神経刺激症状、バイタルサイン 4) 透析記録：施行条件や施行回数 5) 時間的情報：内服や搬送からの透析開始時間、終了時間と再介入時間 ③ 当院に2017年から2023年に搬送され、間欠的血液透析を要した患者で急性薬物中毒の推定内服薬剤がカフェインであった患者。 ④ 個人情報管理の責任者 清水 勇人
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 臨床工学技術課 氏名 清水 勇人 TEL：0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX：0422-32-3525